

自治会1ルー記事：池の台自治会 自治会活動が戻ってきました

昨年は関東大震災から100年を迎えるため、防災に対する活動が求められ10月8日池の台自治会では避難場所の大森六中で、大森六中と長原自治会と共同で雪谷特別出張所、千束特別出張所、雪谷消防署、田園調布消防団第八分団の協力の基、防災訓練を実施致しました。消防ポンプでの放水訓練・簡易トイレ組立・救護班・情報班・通信班に分けられトランシーバーによる救護連絡実演等が行われました。（本来は、六中の生徒さんも参加して実施されるのですが、今回は日程の都合で参加できませんでした）

11月19日には「大森第六中学校まちなか点検」に参加、池の台より通学の生徒さん・雪谷消防署と一緒に実際に自治会内を二組に分かれて、白地図に消火栓、消火器の設置個所の書込み確認、放置された空き家、道路にはみ出している樹木、崩れかけた擁壁など危険個所のチェックを行いました。小池自治会の協力で「防災マップ」の作成を行い本年度中に配布を予定しています。

10月28日、「日帰りバスツアー」を、江戸を感じる北総の街並みの小江戸佐原・香取神宮・成田にある航空科学博物館へ参加35名で実施しました。又、池の台自治会設置の防犯灯を区の補助を頂き蛍光灯より段階的にLED化を実施しています。従来に比べて明るくなり好評を頂いております。

人生100年時代を迎え、小生も本年傘寿を迎えるにあたり健康と体力を維持したいと思い、「はねぴょん健康ポイントアプリ」を始めました。唯歩くだけで無く、各コースの踏破・ミッションの獲得等、ゲーム感覚で始め今まで見慣れた場所も四季折々の景色、地域のイベント・公園・文化施設・公共施設・グルメ等の情報も多く今まで知らなかった新しい地元の魅力を再発見しています。現在1日8000歩を目標に始めたウォーキングが、はねぴょんポイント・順位が毎日更新され結構楽しんでます。

皆さんも健康維持向上を目指して参加しては如何でしょうか。お持ちのスマホにアプリをダウンロードするだけで参加できます。

（池の台・大滝 章）

アプリのダウンロードはこちらから

はねぴょん健康ポイント



コロナ感染症5類指定へ、 その後、賑わいが戻り

新型コロナウイルスが深刻化して丸3年、国民のがんばりもあり、ようやくコロナ感染症も2類相当から5類へと指定を下げ、経済活動も戻りつつある中、「私たちの周りは？」と気になり、地元の行事等がどんな状況かと、雪谷地区のみならず、近隣のイベントや盆踊り・夏祭りに訪れたり、運営者の方々のお話や、参加された方々のお話をお伺いしてきました。

予想していた以上に、人出や露店・出店・屋台の数が、ここ最近最高ではないかとの、雰囲気や反応でした。

数か所で通りすがりの方にお伺いをすると、「やっぱり地域の行事はいいですね、必要ですね。」「運営されている方々も4年ぶり、大変ですね、ご苦労様です。」カメラをお持ちのご婦人は、大田区の写真クラブで活躍されている方で「久しぶりに祭の絵が撮れてよかった。」と画像をみせてくれました。皆さんからたくさんのうれしい言葉をいただきました。

まずは、すっかり賑わいを取り戻したことに感謝し、これからも、感染症・食中毒・火災等に十分注意し、地域のために微力ながらお手伝い出来ればなと思うこの頃です。

（上池上・船山 康夫）



** 編集後記 **



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。お正月と言えば新年・初詣・初日の出・富士山など思い浮かぶキーワードが沢山あります。

表紙イラストは新年号にふさわしい富士山をテーマに今成様より提供して頂きました。諸説ありますが、辰年はバイタリティにあふれたとても魅力的な干支であるとされています。又一年の計は元旦にありと古くから言われ、「ふれあい雪谷」も新たな気持ちで、皆さまに愛され魅力的な地域情報紙を目指して参ります。

（小池・小山 憲生）

【編集委員】

笹丸・小林 忠雄／雪谷石川台・手塚 真利子／南雪谷・河野 洋一郎／東雪谷東中・小山 智恵子／東雪・永久保 美代子／池の台・柏 三八子／小池・小山 憲生／上池上・船山 康夫

ふれあい雪谷(創刊:平成2年12月20日) 年4回発行
(1月・新年号/4月・くら号/7月・あさがお号/10月・もみじ号/の1日発行)

【発行日】 令和6年 新年号 1月1日(通巻・第133号) 発行

【発行】 地域力推進雪谷地区委員会【編集】ふれあい雪谷編集委員会

【連絡先】 大田区地域力推進部雪谷特別出張所

〒145-0065大田区東雪谷三丁目6番2号 ☎3729-5117 FAX3729-1826



小池自治会館2階から見た富士山

この地区には、冬になると富士山のよく見える場所が数多くあります。小池自治会館の2階から望む丹沢山系と富士山は圧巻でした。地元の方達にもあまり知られていない名所なのではないでしょうか。

小池・今成 修さんの作品

「ふれあい雪谷」のホームページは
こちらからご覧いただけます。



航空への思い

終戦後、我が国の航空活動は全て禁止されましたが、模型航空はホビーという事でなんの制限もなく、皇居前広場や神宮外苑絵画館前の野球場等で日米親善競技会が行われていました。当時すでに飛行少年だった私が航空スポーツへの道に入ったきっかけは、小池国民学校6年の時に太平洋戦争による戦災で小池国民学校が焼失した為に赤松国民学校に通っていた時でした。学校の近くに住む当時活躍していた科学小説家、北村小松先生がエンジン付き模型飛行機を授業中校庭で飛ばしていたのを見て、模型飛行機を教えて欲しいとお願いしたのです。高校1年の時に模型飛行機の全国大会で1位になると、実際に空を飛ばたいと思い始めました。7年の航空活動禁止が解けて間もなく、二子玉川読売飛行場で活動を始めていた学生航空連盟に加盟し、大学1年で最初にグライダーのパイロット資格を取得し、卒業後はグライダーメーカーで設計や試験飛行に携わり、その後、(財)日本航空協会に移り航空スポーツを担当、特に運輸省の耐空検査員の認定を受け約55年間に渡り数多くのグライダーの検査(車検と同じ)に携わりました。

昨年、アンリ・ファルマン機(フランス製)という歴史的飛行機を所沢航空発祥記念館から空自、入間基地の修武台記念館に移動・組立・展示する通常では関わる事の出来ない計画にスーパーバイザーとして関わりました。アンリ・ファルマン機とは、1910年(約100年前)、代々木練兵場(今の代々木公園一帯)で我が国初の動力飛行に成功した機体です。歴史的価値があるため、戦後アメリカ軍によりアメリカの航空博物館で展示保管され、日本へ返還後は万世橋にあった元交通博物館にも展示されていました。これからは入間基地の修武台記念館で手続きをすれば見学できると聞いています。

このように航空に長く携わっていた所、2023年9月20日(空の日)に日本航空協会より航空亀齢賞受賞(数え年90歳の人)という長年にわたり航空に幅広く携わり、かつ長寿を祝福する賞を頂くことができました。これからも経験を生かして航空の安全に少しでも寄与できればと思っています。

(東雪谷東中・佐藤 一郎)



(写真-空自 入間基地 修武台記念館にて)

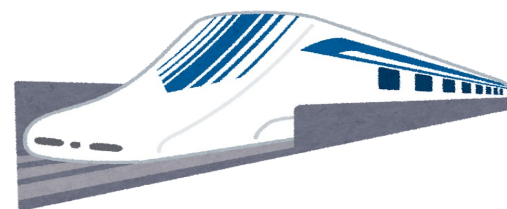
リニア新幹線東雪谷非常口工事と 笹丸自治会

リニア新幹線のルートと東雪谷非常口設置を笹丸自治会が初めて知ったのは2013年9月の雪谷地区自治会連合会定例会長会でのJR東海担当者からの説明でした。これを聞いて笹丸自治会はリニア対策グループを設置し、住民意見交換会の開催、JRへの質問意見書の提出、そして雪谷特別出張所長を通じて大田区長に理解と支援を要請しました。区長は笹丸自治会の意見を理解され地域力推進部長を担当にされました。

自治会が特に重視したのは、「警視庁東雪谷住宅」の取り壊しに伴う50世帯余の活力ある子育て世帯の退去に代わる活力ある住民の存続と防災力の維持でした。自治会は大田区と連絡を取りつつJR東海と交渉を重ねました。都主催の都民の意見を聴く会で会長は公述人として意見を述べました。要望の趣旨は大田区長を通じて都知事に伝わり、JR東海に対する都知事意見に反映されました。JR東海が2014年4月に国交大臣に提出した環境影響評価書には「計画を具体化して行く中で、関係機関や地域住民の方々との意見交換などさまざまな機会を捉えて、環境との調和はもとより地域の快適性やコミュニケーション活動に配慮した施設とするよう努めます」と私達の要望が抽象的な表現ながら明記されました。以上の経過を2014年5月と6月に掲示と回覧で自治会会員に報告して一区切りとしました。

笹丸自治会とJR東海とはその後も現在に至るまで雪谷特別出張所長の立会で3か月に一度の定例会議を持って意見交換を続けています。

(笹丸・森下 輝夫)



雪谷地区の表彰者

○令和5年度東京都生活文化スポーツ局生活安全担当局長賞
小池自治会(団体)
海老澤 信吉(個人)

(敬称略)

地域に支えられる石中生

私は石川台中学校に赴任して今年度で3年目になります。石川台中学校 通称「石中」は全校生徒数206人(令和5年度4月時点)の小規模校です。3年前に特別支援学級の開級をし、今年度は3学年揃い初めての卒業生が出ます。石中は緑豊かで静かな住宅地にありとても落ち着いた環境にあります。その中で石中生は、文武両道で学習・行事・部活動に励んでいます。

7月15日(土)・16日(日)にコロナの影響で中止となっていた雪谷石川台自治会盆踊り大会が4年振りに開催されました。石中生は134名の参加がありました。参加生徒は石中の65%でした。生徒たちは9つの模擬店を分担し、宝くじや金魚すくいなどで熱心に小さな子どもたちの対応をしたり、フランクフルトを焼いたり、かき氷を作ったりと大活躍をしていました。そして、特別支援学級の生徒も焼きそば販売の手伝いによく励んでいました。地域の自治会の皆様や、保護者の皆様に支えられ無事にボランティアをやりきることができ、その日の最後には本校の参加した生徒にボランティア表彰をいただきました。生徒代表として生徒会長・副会長が手塚一会長よりボランティア表彰を受け取り「このボランティア活動を通してとても貴重な経験ができ、中学生が地域で貢献できることにまた励みたいと思う」との内容の感想を話していました。地域の皆様に中学生の健全育成を支えていただき、雪谷石川台自治会の地域は「とても温かでそして熱心な地域」と感じました。私もボランティアの手伝いに携わり、子どもたち同様充実した2日間を経験させていただきました。

今後とも地域の皆様にはたくさん支えていただくことがあるかと思いますが、これからも石中生がますます地域に貢献できるよう頑張っていきたいと思っています。

(大田区立石川台中学校副校長・篠塚 史哉)

～ 雪谷特別出張所レイアウト変更しました ～

令和5年11月6日(月)から雪谷特別出張所の窓口・ロビーレイアウトと窓口の受付方法を変更しました。

○受付方法の変更

11月6日(月)以降は申請書や届出書をご記入していただいた後、受付用発券機で番号札をお取りいただきます。原則として番号順にお呼びして申請書等を確認後、受付完了となります。

○受付カウンターの形状

窓口カウンターの形状を横一列からL字型に変更しました。正面出入口から近い箇所が各証明書の申請や異動届出等の受付用、奥側がマイナンバーカード交付用のカウンターになります。

○区民ギャラリーの移設

正面出入口前の場所に移設しました。